

カトリック六甲教会 教会報

2017

6

No.546

インターネット利用問題とキリスト教

近年問題になっている、いわゆる「ネット依存症」について、カトリック松本教会の教会報に掲載された文章を当教会信徒 川越明美さんからご紹介いただきました。著者は元群馬大学社会情報学部大学院研究科教授・現同大学名誉教授の下田博次氏。「液晶画面に吸い込まれる子どもたちーネット社会の子育て」（女子パウロ会）の著者でもある下田先生はホームページ「ねちずん村」を主宰し、子ども達のインターネット・携帯電話利用問題に取り組まれています。また、警察庁「少年のインターネット利用に関する調査研究会」座長、埼玉県ネットいじめ対策委員会委員長なども勤められています。この話題は、2016年9月4日号のカトリック新聞にも取り上げられています。今回、六甲教会の教会報に掲載することを快くお許しく下さいました下田先生に感謝申し上げます。

第1回 教皇様の発信に注目が

群馬大学名誉教授 下田 博次

先ごろ教皇様がバチカンから世界に向けて「チャットやツイートを控え、一人静かに考えなさい。」と発信し、NHKがこれに注目し、教皇メッセージを引用するかたちで、わが国におけるネット依存傾向の広がりをクローズアップ現代の番組として特集した。

番組では、主婦の「ネットをしていると、あっという間に時間が経ち、夕方になって、昼食を子供にも食べさせていないことに気付いた。」等々のセリフが流された。

もう10年も前のことだが、私はNTT出版社からの依頼で「ケータイ普及による生活変化」について本を書き、その中で中学の生徒指導教員からの奇妙な相談を受けたことを思い出した。教師は私に「生徒から、お母さんがケータイに夢中でご飯も作ってくれないとの相談を受けたがどうすればいいのでしょうか」と言ってきたのだ。

臨床心理医のキンバリー・ヤング博士に言わせると「インターネットは時間泥棒のメディア」ということになっている。私たちメディアの研究仲間が「面白・便利なメディア」と言っているが、インターネットは、テレビより面白く、紙の手紙より速い伝達手段なのでついつい長時間利用、乱用となる。「面白い」ということでは、娯楽情報はもちろんのこと、見も知らぬ人間同士を結びつけ、スリリングな交友関係を作り出す力も持っている。そうした数々の新奇な便利性に呑み込まれると、生活の乱れ、狂いも出てくる。つまり過度な依存傾向を生み出すメディアだということが、次第に知られてきたのだ。





ナルドの花たより

主イエスこそわたしたちの希望です。わたしたちのうちに、そしてわたしたちの兄弟姉妹のうちにイエスが生き、存在しておられることを知っています。 (2017/5/17)

すべての人が社会に何か提供するものをもっています。すべての人の善のために何かを貢献できない人は誰もいません。 (2017/5/9)

どんな時代にあっても復活したキリストは、この世界の荒れ野をさまよう、主の兄弟姉妹であるわたしたちを、辛抱強く探し求めてくださいます。 (2017/5/6)

どうかわたしたちが柔和で謙遜な態度をとり、貧しい人に心を配ることに注意を払っていられますように。 (2017/5/3)

カトリック中央協議会HP 教皇フランシスコのツイート (邦訳) より



2017年度 第1回小教区評議会 議事録

日時：2017年5月14日 12:00~13:20

1. 主任司祭の挨拶

これまでに問題提起してきている通り、「十年後の教会」をメインのテーマとして、協力して新しい姿を目指していきたい。

2. 協議事項

- (1) 新年度・新体制の役員名簿の確認・更新
- (2) 2016年度決算について
- (3) アルミ椅子の購入について

3. 報告事項

- (1) 4月度神戸地区宣教司牧評議会報告
(4月2日(日)カトリックたかとり教会)
- (2) 受洗者・転入者への六甲共同体説明会
- (3) 地区役員会報告
- (4) 東ブロック合同堅信式について
- (5) その他：

5月17~18日にエアコン入替工事。

6月18日 第1、2会議室で社会活動部学習会。

典礼奉仕者の集いは9月10日に変更。



次回、第2回小教区評議会は7月9日(日)12時より信徒会館第4会議室

忘れないで！

～東日本の被災地から～

再び福島へ

5月4日～10日まで福島に行ってきました。原町教会の敷地内に新設されたカリタス南相馬に宿泊しながらのボランティアです。木・金・土は社協の屋外作業。月・火・水はベース関連の活動と視察となります。今回は、原町、小高区、浪江町、そして原発に近い富岡町の通行可能なところまで視察できる機会を頂きました。

ベースでの生活は6時起床、6:30 ラジオ体操・朝の聖務日課・ミサ、7:15 朝食・昼食用の△おにぎり作り 8:30 ボランティアに出発 5:30 ミーティング 6時夕食 10時門限 11時消灯です。入浴は近くの銭湯に行きます。お食事はシスター方が毎日腕を振るい豪華なおいしい食事を準備してくださいます。そして夕食後9時まで食堂での飲酒が認められています。

1日目、仙台空港到着後、ミーティングまでに時間があつたので浪江の請戸小学校に向かいました。雑草の中にあつた住宅の土台部分は取り除かれていましたが、学校を囲むように高い白い遮断壁のようなものが建っていて、一方には金属片の山が、他方には除染物を入れた黒いトン袋(フレコンパック)が広範囲に積み重ねられていました。残る一方には土台にコンクリートを混ぜて作った大きなテトラポット状のものが積み上げられ、海側は再処理工場が稼働していました。生徒たち先生方が逃げて命拾いした小高い山の麓には真新しい鎮魂碑が建ち墓地ができていました。

2日目は社協から依頼の小高地区墓地の裏斜面にのび放題になった竹林の伐採です。チェーンソーで伐採する人、1メートルの輪切りにする人、枝を掃う人、掃った枝を運ぶ人と腕力の問われる仕事でした。私は分相応な運ぶ人で体力温存しました。

3日目も社協の仕事です。午前幅広い敷地のお宅の側溝と側溝柵の清掃でした。長靴を履いて汚泥の掻きだしです。帰還されている方のほとんどが高齢者ですので、敷地内の手入れで手一杯のようです。午後からは昨日の墓地の正面側の竹林伐採です。墓地のてっぺんに立つと、先の方に見える広大な畑には黒いトン袋が一面に積まれています。甲子園球場いくつ分になるのでしょうか？県内に8000万個もあるそうですが、一体これらをどこに運ぶのでしょうか。

4日目日曜日です。今日はボランティアお休み。昨晚東京から戻っていらした幸田司教様のミサに与り、仕事に戻るメンバーを常磐線原ノ町駅まで送り、「今日は地元にお金を落としましょう」と小高区と同慶寺春風まつりに。同慶寺は相馬氏の菩提寺で歴代藩主の立派なお墓が建っています。神戸のお祭りをイメージしていた私たちはお堂の中でこぢんまりと手作りの食べ物・小物を売っているお祭りに、認識の浅さを恥じました。カレーを食べて一路浪江町へ。町役場前の「まち・なかマルシェ」でB級グルメの「浪江焼きそば」を頂きましたが、人出は少なく、私たちのようなボランティア団体のみで少し寂しい雰囲気でした。浪江町は1000戸中40戸しか戻っていないそうです。いざ「希望の牧場」へと迷いに迷って漸く到着。320頭の被ばく牛がのんびりと放牧されています。汚染された牧草ロールはすでに食べつくし、今は牛の命をつなぐ牧草ロール代(年間1080万円)の確保が大変なようです。代表者の吉沢さんは東京のみならず、日本政府が原発を輸出しようとしているインドでも原発を考える運動を展開しています。牧場の周りにも昨年はなかったトン袋がずらりと並び線量を示すラベルが張ってありました。

5日目。午前中は隣の「さゆり幼稚園」の給食用の△作り。教会の方に交じり100個のお握りを手際よく完成。野宿のおじさんに配るお握り作りの成果が発揮されました。夕食の下ごしらえと宿

泊所の清掃を済ませ、午後は幼稚園の見守り保育と「真こころサロン」の傾聴に分かれてお手伝い。夜にはノーベル文学賞作家スベトラナ・アレクシエービッチさんが福島の被災者に心を寄せた「小さき人々の声を求めて」のDVDを全員で鑑賞しました。被災地に戻った高齢者たちが次々と亡くなってしまったら、この町は消滅してしまうのではないかと勘ぐりたくなくなりました。

6日目。今日は小高・浪江・富岡の視察です。小高地区は4月から小・中学校の開校と3高校を1高に統合し新たな高校開校もあってでしょう帰還率は16%程度に上がったそうです。

浪江では帰還できるようになったものの、留守宅に住み着いたネズミやハクビシンの被害で住める状態でなく、多くの家に取り壊しの順番を示す札が掛かっていました。スーパーもなく、病院もない状況では高齢者も戻れず帰還率は4%程度ようです。

富岡に行く途中の双葉町・大熊町は原発（F1）に近く車両通過のみ許可の場所です。南に下っていくにつれ線量は上がっていきます。帰還困難区域の為、道路、路地、玄関などには嚴重にバリケードが張り巡らされ入れないようになっています。

富岡ではテレビでよく映し出される夜の森桜のトンネルの場所も通過しました。この地域は道を挟んで居住制限区域と避難指示解除地域に分かれています。上空には同じ空気が流れているのに納得のいかない気分です。東電では賠償金を払いたくないので帰還を促しているとか・・・。富岡駅では鉄道の復旧工事が進み、マンションや民家を建築中でした。また、近くには大きくて立派な廃棄物焼却施設が2棟ほど建ちフル活動の様子でした。昼食に入った大型ショッピングモールには原発関係と思える作業服姿の男性が大勢食事をしていました。きっと廃炉に向けて多くの方たちが家族と離れ働いているのでしょう。視察を終え、私は「小高プラットホーム」に行き代表のHさんの話を再度聞き、故郷を愛する人々の前向きな熱意をひしひしと感じました。小高駅で電車を待っていると授業を終えた高校生達が賑やかにホームを埋め尽くしました。小高は自分たちの力で立ち上がっていくと感じたひとコマでした。

最後の夕食後、復活祭に洗礼を受けたメンバーのお祝いをケーキと和菓子と抹茶でしました。毎晩お酒とつまみをぶら下げてみんなと歓談して下さった幸田司教様、おいしい食事を作って下さるシスター方、お世話して下さったスタッフの皆様に感謝です。

復興しつつある部分と先の見えなさそうな部分が混じったなんだかやるせない気持ちになった今回の福島訪問でした。地元の方々は各々の場所で懸命に頑張っておられます。忘れてはいけないと思います。

皆さんもぜひ現地を見て、自分でいろいろ感じてください。

(長瀬)



初聖体・祝福式（4月23日）

4月23日に6名の子どもたちが初聖体・祝福式に与りました。当日朝、六甲山の方を見ると空は清々しく澄み渡り、天の祝福と共に神さまに見守られているととても嬉しく感じたのを思い出します。この日は私も、無事子どもたちが初聖体・祝福式を終えた喜びと共に新たなエネルギーを大きなお恵みとして頂きました。この1年この子どもたちと関わったことに心から感謝しています。これからも教会の子としての子どもたちの健やかな成長を楽しみにしています。皆さまも温かく見守ってお祈りください。（2年生クラス担当リーダー）

【子どもの感想】

初聖体・祝福式がおわってからかわったことが2つあります。1つ目はミサが好きになったことです。2つ目は教会がもっともっと好きになったことです。私は教会に休まずに、毎週毎週行きたいです。休まないようにがんばります。神さま見まもってください。（葵）

初聖体・祝福式で共同祈願の練習の時人があまりいなかったので言いやすかったけど本番は人がいっぱいいたのできんちょうしました。

じゅうじかときょうかいのペンたてがもらえてうれしかったです。（章太）

ろう読をはじめた時は、うまくいえるかしんばいでしたが、うまくできたので、おわった時にすぐリラックスしました。ごせい体をたべた時は、おもったよりもあまかったです。これからもイエスさまとなかよくしていきたいです。（葵）

はじめてごせい体を受けてうれしいきもちになりました。ごせい体は思っていたものよりふつうの味でした。でも、神さまの体をいただいたら、心が強くなれそうです。だからごせい体をもらって体と心が強くなりたいです。（みなみ）

はつせいたいがかうけられてうれしかったです。はじめてたべたパンはおもったあじとちがいました。なんにもあじがしないとおもいましたがちょっとだけあじがしたからです。おもったよりおいしかったです。

これからは神さまがよろこぶような人になりたいです。（侑己）

はじめてごせいたいをいただけてうれしかったです。なぜかと言うと、お母さんやお父さんやお姉ちゃんがたべていたからです。ろうそくをもったとき、火が少しこわかったです。はじめたとき、「ちゃんとできるかな」と思っていたけれどおわったときはほっとしました。ちょっとしんばいしたけれども、楽しい1日だったからよかったです。（もえ）

【保護者の方の感想】

初聖体・祝福式のお祝いをしていただきありがとうございます。たくさんリーダー、神父さま、教会の方々にあたたかく見守って下さる中、このお祝いの日を6名の仲間と迎えることができたこと本当に嬉しく、そして親子共々心より感謝しております。

娘自身は1年間クラスで神さまのことを学び、錬成会では親子で洗足体験や十字架の道行について学びました。神さまのことについて学ぶ中で娘はいろいろと考えたり、好きな聖句を口にする様子も見られ、たいへん良い時間を過ごさせていただいているのだと感じておりました。花冠をかぶり、白衣を身につけ礼拝を守る姿はとてもほこらしげでした。様々な話し合いを重ね、花冠、コサージュづくり、錬成会でのお料理づくり、初聖体・祝福式でのケーキづくり等 様々な準備を一緒

にするうちに、親同士のつながりもより深まりました。親子共々よりよい時をすごせたこと本当に感謝しております。

神さまに見守られる中、これから娘が神さまや人々に愛される人に、そして愛する人になれるように娘らしく歩いて行ってほしいと思います。

最後になりましたが、神父さま、リーダーそして初聖体・祝福式、パーティーの準備をして下さった方々、ありがとうございました。

青天に恵まれた4月23日無事初聖体・祝福式を終えることができました。

今日まで導いて下さった神父さま、リーダー方、携わって下さった全ての方に感謝します。ありがとうございました。

娘は1才の頃にテレサという洗礼名を受け神父さま代母さん教会の皆さまに温かく見守られながら8年 初聖体を無事に迎えることができ 娘の成長した姿に喜びを感じました。家ではなかなかお祈りの環境が作れず毎週ミサに来ることによって、心をしずめ神父さまのお言葉を通してイエスさまに耳を傾ける時間を経験してきました。

初聖体の時にアルフレド神父さまより今すぐできるお祈り 朝起きたら、今日も1日お守りください。 夜ねる時には、神さまに感謝する。そんな風に毎日お祈りを実践することで、イエスさまと共に生きる喜びを感じてほしいです。

そして私も忙しい子育てに時間を追われている中で、朝と夜実践しこれからイエスさまと仲良くなる為に日々感謝をし、すこやかに成長して行ってほしいと思います。

娘が初聖体の秘跡を頂く日を迎えました。当日までは、自分の仕事と式のための冠やパーティーの準備に追われるようにして日が過ぎて行き、娘が初聖体を迎える本当の喜びを実感する間もなく式を迎えてしまいました。ところが、式の中で神父さまが「この子の家族はみんな立ってください」とおっしゃった時、「ああそうか!」と思いました。「私たちは家族で神さまの体を頂いている。そしてそれを分かち合うことができる」ということをとても嬉しく感じたのです。ご聖体を頂く時、神さまから一対一のように自分だけに愛を注いで頂いたと感じていましたが、一対一ではなく、神さまの体をみんなで分かち合うことにこそ喜びがあるのだということに改めて気づかされる瞬間でした。

毎日の家事や仕事に追われていると、つい家族から離れて“自分一人だけの楽しみ”を探したり味わったりしたくなってしまいます。「神さま、ありがとう」と一人で感謝して満足していることも多くあります。けれど、家族で楽しさを分かち合う時間や、家族と一緒に「神さまありがとう」と感謝する時、もっと多くの喜びが得られるのだということをいつも心に留めたいと思いました。初めてご聖体を頂いた娘は、「味がなかった!もっとおせんべいみたいな味と思ってたのに・・・」というのが本音の様です。神さまから無限の愛がたくさん注がれていること、そしてそれを感謝し、誰かと分かち合うことはとっても嬉しいことだということを、子どもと共に味わい、成長していきたいと思います。

最後になりましたが、いつも温かく見守り、導いてくださった神父さま、リーダー方、そして信徒の皆さまありがとうございました。これからもどうぞよろしく願いいたします。

4月23日に初聖体・祝福式にあずかることができました。1年間この日に向けて準備して下さった神父さま、リーダー方、また保護者の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。

侑己の「白いパン、僕も食べてみたい」というある意味、とてもシンプルかつ純粋で、ある意味とても不純な気持ちからこうやって洗礼を授けていただき、初聖体まで迎えることができたのは、私にとっても大きなお恵みです。

「パン」だけではなく（笑）、これから先、侑己の心の中の神さまはどのように大きな存在へと育ってくれるのかな、と親として楽しみな反面、私自身もしっかりとしないといけないな、と身が引き締まる思いです。

願わくは、どんなに大きくなっても心の中に教会と神さまがどこかにある子になりますように。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしく申し上げます。



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 小教区評議会

6月18日(日) 10時ミサ後 財務報告会
7月9日(日) 12:00 評議会

📖 典礼部

6月25日(日) 11:15~15:00 侍者錬成会
7月2日(日) 11:15~15:00 侍者錬成会

📖 施設管理部

6月25日(日) 12:00 部会

📖 広報部

7月2日(日) 教会報7月号発行

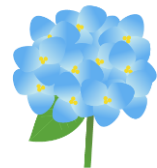
《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

- 6月7日(水) 10時 手芸の集い(第1、第2会議室)
どなたでも参加ご自由です。
- 6月10日(土) 10時 炊き出し(イグナチオホール台所)
小野浜グラウンドにておじさん達のお話相手や配食だけでもOKです。
- 6月18日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール) ボランティア支援団体出店
- 6月26日(月) 9時半 ともしび会(イグナチオホール台所)
施設の子どもたちへのケーキ作り

~~~~ 学習会お知らせ ~~~~

日時：2017年6月18日(日) 13時~14時30分
場所：信徒会館 第1・2会議室
参加費：無料
講師：Sr 古屋敷一葉(援助修道会)
テーマ：“1970-80年代 カトリック日韓連帯の時代”



カトリック教会が、貧しい人々、社会の中で疎外されている人々との連帯について積極的に活動するようになったきっかけは、第二バチカン公会議(1962~65年)にあったということをご存知の方も多いことでしょう。公会議で出された方針に基づいて、どのような活動をすれば良いのだろうかと戸惑いも感じていた日本のカトリック教会に一つの示唆を与えたのは韓国のカトリック教会の動きでした。

さて、その動きとは？ そして、今 私たちは何を？ 多くのかたのご参加をお待ちしております。

社会活動部

★典礼部より★

① 『典礼奉仕者の集い』の日程変更について

教会行事予定表でお知らせしております日程を変更いたします。

(予定) 2017年6月18日(日) 12:30

↓

(変更) 2017年9月10日(日) 12:30

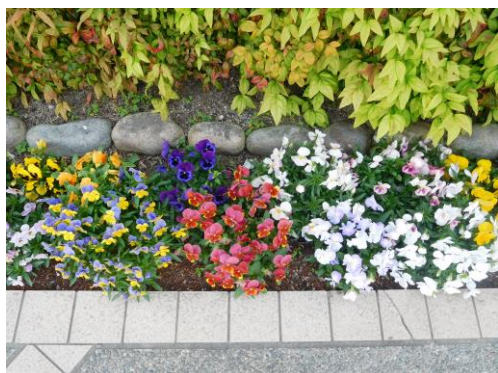
② 聖体顕示についてのお知らせ

6月23日(金) 10:00～11:30まで、イエスのみ心の祭日に『聖体顕示』を行います。

ご聖体の前で祈りを深め、私達の日々の暮らしが、イエスのみ心にあふれる神の愛によって、支えられていることを実感したいと思います。また、キリストのもとにとどまって親密さを味わい、主のみ前に心を打ち明け、自分のため、親しい全ての人のためにもお祈りいたしましょう。多数の皆様のご参加を、お待ちしております。

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．

❀❀❀❀❀ お庭だより ❀❀❀❀❀



教会の木々も萌黄から新緑そして緑が深まり駐車場にシャドーカバーを作ってくれる季節となりました。晩秋に植え込んだ春咲き花々も夏向きの花壇に模様替えの時を迎えています。

私達の六甲教会敷地の周囲に植栽されている樹木は高低木合わせて50種類以上にもなります。野草は勢いよく春の訪れを伝えてくれ、タンポポ、カラスノエンドウ、オランダミミナグサ、ヨモギ、ヒメオドリコソウ、カタバミ、マツバウンラン、ヤエムグラ等、数えきれません。庭師は忙しくなりますが、子供達が摘み草をしている様子は絵本から飛び出てきたようで愛おしい光景です。

ウメ、アーモンド、モクレン、サクラの開花から始まり、初夏にはレモンの花が芳香な香りを放し、古代ギリシャのロマンを秘めたアカンサスがダイナミックに凛々しく開花です。夏はアブラゼミがサクラの幹で合唱、バッタが飛び交います。秋はギンナン、オリーブ、アーモンド、シナヒイラギ等の実の収穫、そして美しい紅葉が落下し冬の到来です。

お向いのお屋敷の解体と共にお庭の木も伐採され、それに伴って今年はこちらの庭に引っ越してきた野鳥達が春先まで遊んでいました。毎年、聖母月に併せて栽培なさっている白百合の葉っぱが鳥たちの食欲を満たし、急遽、網で囲われるというハプニングもありました。信徒会館の南面には長年にわたり球根植物が色とりどりの花を咲かせてくれます。

3年前、ステンドグラスが美しく見えるようにリニューアルし現在の花壇になりました。以前は池には魚が泳ぎ、垣根が組まれた和風庭園でした。水の管理が難しく、水を抜き空池になりました。先輩方がコツコツお仕事をなさっていた姿を思い出しながら老朽化した柵を取り除きました。この場所は植物にとって最良の環境です。年中、日当たりが良く適度の風通しがあります。聖堂が北風

をさえぎり越冬に適しています。ごミサのある日は勿論、週日もオルガン・聖歌の練習が聞え、植物に音楽をきかせると元気に成長するのではないかと！？感じるほど、美しく咲いてくれます。手入れをしていると天国に一番近い場所と思える至福の時です。

神父様方は植物に大変関心をお持ちでフジ蔓、樹木の剪定、そして庭全体を丁寧に見てまわっておられます。マリア像のミニガーデンに毎日のお水やりやお手入れ、花殻や落ち葉の掃除、夏の水蒔き等、其々の季節に応じてお手伝い下さる方々がいらっしゃいます。

この自然に恵まれた心地よい環境のお庭を黙想の祈りの場、若いお母様と子供達が植物と触れて頂けたら、皆さまのリラックスしたティータイム、コミュニケーションの場として活用下さることを望んでいます。素敵なベンチも待っています。



(施設管理部 園芸係 マリアクララ 貴島)

「納涼の夕べ」 イベント参加者募集！！

「納涼の夕べ」イベント参加を募集しています。

月 日： 8月19日(土)

場 所： 教会駐車場（雨天時イグナチオホール）

- ・参加項目は問いません。（歌、踊り、ダンスなど）
- ・1ステージ15分位でお願いします。
- ・多数応募の場合は、お断りする場合も有ります。

応募受付：6月25日（日）10時ミサ終了後まで

<問い合わせ先>

納涼の夕べ実行委員会（堤、千原、紙谷）。

または、所属している地区会長まで。



ご応募をお待ちしています。

神戸地区東ブロック合同堅信式

日 時： 6月11日(日) 10:00 六甲教会
司 式： 前田大司教様
式進行統括：アルフレド神父様
受堅者： 住吉教会4名、中央教会7名、中央教会(英語グループ)4名、
六甲教会8名 計23名

※リハーサル(受堅者、代父母をのぞく典礼奉仕者、実行委員)
6月4日(日) 14:00 六甲教会聖堂
※当日、受堅者と代父母は、六甲教会聖堂に9時集合。



みんなの広場

6月

6月、み心の月。交代の時間割を作って顕示されたご聖体の前に、終日誰かが侍り続けた「償いの聖時間」を思い出します。

今年は、聖霊降臨、三位一体、キリストの聖体、イエスのみこころ、洗礼者ヨハネの誕生、聖ペトロ聖パウロ使徒と祭日のオンパレード。

信徒にとっての一年は1月1日ではなく、待降節第1主日の筈ではなかったか。それから次のその前日まで間、日々をどう生きるか。

「神は遍在し、すべての被造物に内在する」の命題を思わざるを得なくなって、カトリック中央協議会の「毎日のミサ」にも頼ることになりました。ミサの代わりにはならないとしても、記憶に残らないとしても、1日に一度その日の典礼を読めば。

1年、5,300円は少々お高いように思うかもしれませんが、それでも1日当たり15円になります。(ヨハネ 三好)

教会報 2017年5月号 訂正とお詫び

教会報5月号に間違いがございました。お詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正致します。

・みんなの広場でご紹介した俳句 正しくは、

暮れなずむ 野地蔵守る 寒雀 恭子

教会報7月号の発行は、7月2日(日)です。
原稿は6月18日(日)までに教会受付へご提出
ください。FAX 及びメールでも受付いたします。
(広報部)
<http://www.rokko-catholic.jp>

カ	ト	リ	ッ	ク	六	甲	教	会						
〒	657-0061	神	戸	市	灘	区	赤	松	町	3-1-21				
電	話	0	7	8	-	8	5	1	-	2	8	4	6	
F	A	X	0	7	8	-	8	5	1	-	9	0	2	3
発	行	責	任	者	ア	ル	フ	レ	ド	・	セ	ゴ	ビ	ア
編	集	広	報	部										